

一筆啓上

作左通信



第八号

平成十三年一月二十一日(日)発行

新年、明けましておめでとうございます。いよいよ二十一世紀の始まりです。

一昨年の十二月二十六日に発足した「一筆啓上 作左の会」も、皆様の温かい励ましとご協力により、順調に歩むことができました。

一年間の活動内容を振り返ってみると、最初の大きな事業は、三月二十六日に取手市との交流を行ったことでした。取手市は、本多作左衛門の終えんの地であり、市役所の方に、作左衛門の墓や関係する史跡を案内していただきました。一昨年から始まった「頑固者

賞」の取り組みについてもお話をうかがいました。

そして、取手市では八月から約二か月間、取手市埋蔵文化財センターで「本多作左衛門と子孫たち」の企画展が催されました。「作左の会」からも、作左衛門に関する資料や写真を送り協力いたしました。展示の仕方がとてもすばらしく、一つ一つの資料の内容が、分かりやすく説明されました。

また、十一月には、作左衛門の子の成重が丸岡城主になった関係で、福井県の丸岡町を訪問しました。日

本最古の天守閣や本多家歴代の墓を見学したり、「日本一短い手紙」を募集するに至るまでの苦勞話を聞いたりしました。

さらに、作左衛門が求めた人を思いやる心を大切にしよう、愛・夢・緑の文字を刻んだ石のベンチを設置し、「あよぶ運動」と名づけた小さな福祉活動を展開しました。

十月の「学区ふれあいウォーク祭り」は、学区の史跡探索や地域の人たちとのふれあいが目的で開催されました。天気もよく、チェックポイントでは様々な趣向が凝らされ、大変盛り上がりしました。「作左の会」では、畑いっぱいコスモスを栽培し、その美しさに地域の人たちは感動していました。



—石のベンチで学習する子供たち—

このような経過を経て、本日、総会を迎えることができました。総会の除幕式では、念願の「一筆啓上」の石碑が公開されます。これから、この石碑が地域のシンボルの一つです。二十一世紀、さらに「作左の会」を発展させていきたいと考えています。活動の充実を図るため、皆様のますますのご協力をよろしくお願いいたします。